

ARC—Vを世紀末次元の カードで侵略してみた

二元論

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

タイトルどうり世紀末次元のカードをつかって主人公が侵略していきます。

完結できるように頑張りますが、色々あつて亀更新なので連続更新とかは期待しないでください

補足

世紀末次元とは、ニコ動にある本体さんの動画に出てくる次元で、本作品は本体さんの動画に出てくるカードを使います。本人には許可を得ていますので問題はないはず
です。

詳しくはニコ動 世紀末次元 辺りで調べてみてください

目次

サラサラ	1
君の名は。	9
隣の芝は刈り取るもの	18
先行？ ナニソレオイシイノ？	30
更地に：：	38
エンタメとは：：	44
今更だけどキャラ紹介だお！	54
開幕!! 舞網もちもちシツプ	57
バトルロイヤル開幕	68

サラサラ

スタンダード次元 舞網市では、今一つの噂話が話題になっている。曰く『見たことのない召喚法、見たことのないカードを使い連戦連勝、その戦歴には一つの黒星も無く、その後には数多くの決闘者の屍がある』というものだが、この手の話は大抵は噂が噂を呼んで話が大げさになったものであるのだが、とある有名な決闘塾の決闘者が実際にこの噂の相手とデュエルをしてこの噂が本物だと証明したのだ。その時に彼は「あれは間違いなく最強の決闘者だ、俺はアイツのライフを一ポイントも減らすことどころか何もさせてもらえずに完膚無きまでに叩き潰されたよ」と語ったそうだ。そして、またここにもその噂の決闘者との対戦を望む者がいた

——

「で、本当にその噂の相手がいるとして、なんでそんな相手にわざわざデュエルを挑むのよ？」

緑がかった黒髪を切り揃えたロングヘアの女の子…光津真澄がこの話をした相手

にそう言う」と

「決まってるだろ！僕の華々しい50連勝目の相手になってもらってついでにその噂の相手に初の黒星を付けてやるのさ！」

後ろに反り返った紫色の髪が特徴の男：志島北斗が答えた。彼らはLDSの塾生で共に融合・エクシードコースの首席で、本当はここにシンクロコースの首席である刀堂刃も加わるのだが、彼は用事でここにはいないようだ

「…まあいいけどね。その噂の決闘者にどうやって会うのよ。デュエルするにしても会えなきや意味無いでしょ」

「その辺の抜かりはないよ。ちゃんと調べてある」

そう言うって北斗は手元のPatを操作して真澄に見せる、見せられた画面には舞網市の地図であり一部には赤い円がある

「その噂の決闘者は毎日この場所を徘徊しているらしくてね。明日からこの周辺を探索するのさ」

「へえそう、まあ頑張りなさい。あと、どんなカードを使うのか教えなさいよ。私も挑みたいのだから」

「まあ記憶に残ってたらか教えてあげるよ」

そう言うって彼らは解散した

――

そして次の日、北斗は噂の決闘者が出没すると言う場所で決闘者を探していた時「ねえ、あなた、デュエルしましょう」

その声に北斗が振り向くとそこには、デュエルディスクを構えた金色の長いストレートの少女が居た

「君が噂の決闘者かな？」

「噂って？」

「簡単に言おうと、連戦連勝で負け無しの決闘者かってこと」

「うーん、それが私かどうかはわかんないけど、今のところ負け無しだよ」

「そうか、ならお相手願おうかな」

そう言つて北斗もデュエルディスクを装着した

「デュエル!!」

「――」とところでデュエル形式はスタンダードですが、大丈夫ですか?」「あ、大丈夫だ

よ」――

北斗LP4000

VS

少女LP4000

「先行は僕がもらう！僕は『セイクリッド・グレディ』を召喚！グレディは召喚に成功した時、手札の『セイクリッド』モンスターを1体、特殊召喚できる！この効果により、僕は『セイクリッド・カウスト』を特殊召喚！『セイクリッド・カウスト』のモンスター効果！1ターンに2度、自分フィールドの『セイクリッド』モンスターのレベルを1つ変化させる！カウストとグレディのレベルを1つあげる！」

カウストの効果によりこれで北斗の場には光属性レベル5のモンスターが二体揃った

「僕はレベル5のグレディとカウストの2体で、オーバーレイネットワークを構築！星々の光よ！今大地を震わせ降臨せよ！エクシーズ召喚！ランク5！『セイクリッド・プレアデス』!!さらにカードを二枚伏せてターンエンド」

北斗LP4000手札1

モンスター『セイクリッド・プレアデス』攻2500

魔法・罫 伏せ2

少女LP4000手札5

モンスター

魔法・罫

「私のターンドロロー、私は『トリオンの蟲惑魔』を召喚。さらにトリオンの効果でデッキから『ホール』または『落とし穴』と名のついた通常罫を一枚手札に加えます」

「させるか！ プレアデスの効果発動！ このカードのオーバレイユニットを一つ使って相手フィールドのカードを一枚手札に戻す！ 僕は『トリオンの蟲惑魔』を対象にしてそいつを手札に戻す！」

プレアデスのオーバレイユニットがプレアデスの胸に吸い込まれ光の波動のようなものごとトリオンを手札に押し戻そうとするが

「エクストラデッキの『サラの蟲惑魔』は自分フィールドのXモンスター以外の『蟲惑魔』モンスターが、戦闘・効果の対象となった際、それを無効にし、その無効にしたカードと対象となったカード全てをX素材としてX召喚します」

「はア!？」

プレアデスとトリオンを飲み込む程の大きな穴が開き、トリオンは嬉嬉として飲み込まれたが、プレアデスは飲み込まれんと抵抗するがそれも虚しく、その穴から伸びてきた鳶に絡め取られ飲み込まれた。穴が閉じた時、そこにはいつの間にか可愛らしい少女

のようなモンスターが居た

『サラの蟲惑魔』攻2500

「ああ、僕の、プレアデスが」

「バトルフェイズに入ります。サラであなたにダイレクトアタック」

「ツ！トラップカードオープン！『聖なるバリアーミラーフォース』！これで君のモンス

ターには消えてもらう！」

「『サラの蟲惑魔』はX素材を持っている時トラップカードの効果を受けません」

北斗の周りに展開されたバリアをすり抜け、サラの蟲惑魔は北斗を攻撃する

北斗LP4000↓1500

「サラの効果発動、X素材を一つ使ってデッキから『蟲惑魔』モンスターを召喚します。

『トリオンの蟲惑魔』を召喚。召喚成功時デッキから『狡猾な落とし穴』を手札に加えま

す」

『トリオンの蟲惑魔』攻1600

「まさか、こんな簡単に、僕が」

「バトル、トリオンでダイレクトアタック」

「僕の50連勝がああああ!!」

北斗LP1500↓0

『WINNER 少女』

――

「ありがとうございます」

そう言つて少女は去つていったが、北斗はしばらく呆然としていた

(… 負けた、完敗だ)

そう、完敗だ。自分の切り札は何も出来ないどころか相手に利用され結果的このよう
な敗北となつてしまった

(いつまでもよくよくよしたつてしようがない。もう一度、デッキを見直して、相手の戦術
を調べてもう一度リベンジするんだ！)

「そうと決まれば、もう一度49連勝し直すか！」

そう言つて彼はLDSに帰つていった

――

そして、北斗と戦つた噂の少女は

「はー緊張したなあ」

(まさか原作キャラだったとは思わなかったよ)

そう、彼女はいわゆる転生者というものだが、神様にあつたわけでもなく気づいたら

この世界に居たというものだ。カードもその際彼女と一緒にあつたデッキが数個あり、彼女はそのデッキを少しづつ改造しながら使っている。

(確か彼はLDSの塾生だったし、これから原作との関わりたいしなあ。やっぱりLDSに行つたほうがいいかな)

だが、それには問題がある。彼女の使っているカードはこの世界には存在しない。いや、どこの次元にも存在しないカードだ。このカードたちのことを知られては何となくまずいのではという不安があるのだ。

「まあなるようになるしかないよねえ」

彼女はそう言って一つ背伸びをして彼女は自分の家に向かった

君の名は。

原作キャラとデュエルしたあの日から少しあと、自宅のテレビで遊矢くんがペンデュラムを覚醒させたのを見た。これから原作の物語が動き出すのかと少しワクワクしたけど、私はまだ原作キャラとの関わりが全くないことを思い出して焦ったりもした。けど、まさか

「単刀直入に言おう。君は何処の次元から来た？」

どうしてこうなってるの？

OK、まず情報を整理しよう。

まず昨日テレビで遊矢くんがペンデュラムを覚醒、次に私のカードが何枚かペンデュラムカードに変わってるのを確認した。次の日、いつもどうり家から出る時に黒服の人に連れ込まれた。そして今、私の目の前には赤馬 零児が居る。うん、わからん

「どうした？ 黙りでは、状況は変わらんぞ？」

「… 何処から来たって、私はここの出身ですよ」

「なら君の持っているカードは何処で手に入れた？」

「答える義務はありますか？」

「貴様！社長の質問に真面目に答えんかッ！」

「いい、下がっている中島」

「ですが社長」

「・・・わかりました。ならこういうのはどうでしょう。これから私とあなたがデュエルして、あなたが勝てば私の知っていることを洗いざらいぶちまけてあげます。私が勝ったら、最大の譲歩としてLDSに所属してあげますが、一切詮索しない、させないでください」

「・・・いいだろう。その提案を受けよう」

「良かったです。では、デュエルスペースに案内してくださいませんか？」

そしてLDS所有のデュエルスペースに到着。

「デュエル形式はアクシオンデュエルで構わないな？」

「ええお好きなようにどうぞ」

「では、中島！アクシオンフィールドをセットしろ！」

『はい、アクシオンフィールドON！『王の遺跡』』

リアルソリッドビジョンが起動し周りの空間を上書きする。そこは王に謁見する広

間のようなところであった。

「戦いの殿堂に集いしデュエリスト達が」

「…… モンスターとともに地を蹴り、宙を舞い、フィールド内を駆け巡る」

「これでデュエルの最強進化形！」

「アクション」

「デュエル!! (デュエル)」

赤馬LP4000VS少女LP4000

「先行は私だ。私は『地獄門の契約書』を発動。デッキから『DD』モンスターを一体手札に加え」

赤馬が説明しながらデッキに手を触れると、デュエルディスクからブザー音が鳴り響く。デュエルディスクにはこう書かれていた

『ERROR 対象のカードがデッキに存在しません』

「…… 君が、なにかしたのか？」

「……」

そう言つて来た赤馬に対して私はフィールドゾーンのカードを手に取り赤馬に見せてあげた

「フィールド魔法『混沌』^{カオス}はデュエル開始時にこのカードをフィールドゾーンに置くか、または行わずに破壊するか選択します。当然発動させて頂きました。そしてこのカードはフィールドゾーンを離れることはありません。さらに私のフィールドゾーンに『混沌』が存在する限り、全てのカード名はルール上『混沌』として扱います」

「なんだと・・・」

そう、これはテーマデッキには最強のメタ性能を誇る最強カード。このカードを食らって動けるデッキはそうそうないし、赤馬の使う『DD』デッキはこのカードで完全に機能停止にさせることが出来る

「……私『DD』ケルベロス』を召喚し、カードを二枚伏せてターンエンド」

赤馬LP4000 手札1

モンスター

『DD』ケルベロス』攻1600

魔法・罫

『地獄門の契約書』

伏せ2

「私のターン、ドロロー。私は手札から『マジカル・アブダクター』をペンデュラムスケールにセット、さらに『成金ゴブリン』を発動、あなたのライフを1000ポイント回復させてワンドロー、追加でもう1枚つかってワンドロー。さらに『魔界劇団』カーテン・ライザー』をペンデュラムスケールにセット」

赤馬LP4000↓6000

『マジカル・アブダクター』魔力カウンター0↓3

「『マジカル・アブダクター』の効果発動、魔力カウンターを3つ取り除いてデッキからペンデュラムモンスターをサーチします。『竜騎士 マスターP』を手札に、カーテン・ライザーの効果発動、フィールドにモンスターが存在しない時、デュエル中に1度だけこのカードを特殊召喚できます。そしてマスターPを空いたペンデュラムスケールにセットして効果発動、片方のペンデュラムスケールのカードを破壊して同名カードをサーチします。私は『悪夢の拷問部屋』を手札に加えてそのまま発動、そして『浮幽さくら』を召喚」

鏡LP4000 手札2

モンスター

『魔界劇団 カーテン・ライザー』星4 攻1100

『浮幽さくら』星3 チューナー攻0

魔法・罨

『悪夢の拷問部屋』

白い服を着たさくら色の髪をした少女が私のことをチラチラ見てくる。何この子お持ち帰りしていい？

「：． 私はレベル4のカーテン・ライザーにレベル3浮幽さくらをチューニング」

さくらちゃんは3つの光の輪になりカーテン・ライザーを包みこむ

「鋼鉄の機械よ、今ここに現れ、世界に悪夢を再び！シンクロ召喚。」

現れよ『ダーク・ダイブ^混・ボンバ^沌ー』!!」

光の柱が生まれ、その中から出てきたのは鋼鉄の戦闘機、そうあの悪夢の主犯者、DDBだ

「『ダーク・ダイブ・ボンバー』の効果発動。フィールドのモンスターを一体リリースすることでそのモンスターのレベル×200ポイントのダメージを与えます。『ダーク・ダイブ・ボンバー』をリリースしてあなたに1400ポイントのダメージを与えます」

DDDBは赤馬に向かつて突き進む。その姿はまさに神風特攻隊ってそうやってダメージ与えるんだ。

「チイツー!」赤馬LP60000↓46000

「これでおしまい。『悪夢の拷問部屋』の効果発動、『悪夢の拷問部屋』以外で効果ダメージが発生した時、相手に300ポイントのダメージを与えます」

「クツ」LP46000↓43000

「『悪夢の拷問部屋』の効果、300バーンです」

「さて、そのカードは『悪夢の拷問部屋』のバーン効果には起動しなはずぞー!」

焦った表情で、まるで縋るような姿に何故か背筋がゾクゾクした。そして、私はできるだけ満面の笑みで答えてあげた

「いいえ?この場には『悪夢の拷問部屋』なんて名前のカードは存在しませんよ?あるのは『混沌』だけです」

「クソ!」

そう言って赤馬はアクションカードを拾う為走り出したが、それも無意味に終わってしまった。落ちていたアクションカードを拾ったら再びブザー音が鳴り響いたのだ

「何故だ」

「それはアクションカードではないと認識されたのでしょうか。この場にあるのはアク

シヨンカードでも何でも無い。ただの『混沌』です」

そう言い切った後、赤馬はデッキに手を置いた。どうやら打開策を思いつかなかつたらしい。こうして、私はデュエルに勝利した

「さて、約束通り、今後私のこともカードのことも詮索しないでくださいね」

あの後、赤馬はちゃんと約束を守れることを契約書に誓い、私はLDSに所属することになった。これで原作に触れる機会が出来た！

「さて、最後に1つだけ聞かせてくれ」

「? 何でしょう」

「君は、我々の味方か?」

「… 少なくとも、今は敵ではありませんよ」

私はそう言つてこの場から立ち去つた

「社長!! いいのですか、あのようなものを」

「問題ない。むしろ勝手に動かされた方が我々の計画に支障をきたす可能性が高い」

最初、私は彼女の持つカードに着目していた。彼女がカードを提供してくればそのカードを量産しランサーズの強化に繋がるのではない、彼女に接触した。だが、それはもしかしたらパンドラの箱だったのかもしれない

「これからはできるだけ彼女を刺激するようなことはするな。彼女が敵にまわった時、誰も止められるものは居ないだろうからな」

問題はこれだ。もし彼女が敵になった時、私の知っているプロデュエリストでも誰一人として勝つことは出来ない、と断言出来るだけの実力を彼女は持っている。さらに彼女は複数のデッキをつかって戦うとても珍しいデュエリストで、その実力はまだまだ未知数なのだ

「：： 少しでも、彼女の手札を知っておきたいな」

明日にでも彼らとデュエルをさせようかと、私は物思いにふけることにした

隣の芝は刈り取るもの

昨日の今日で赤馬から呼び出しをくらった。全く休日はゆつくり寝かせて欲しいよね（起こさなかつたら15時まで寝てます（、ー、ー）ノ、ー、ー）ボコツ）なんか変な天の声が聞こえたからとりあえず殴っておく。で、要件もなく朝9時に連絡が来て迎えを寄越すからLDSまで来いと言われ、それなりのレアカードを条件に行くことにした。で、今私はLDSのデュエルスペースに居た。

「あなたがあの噂の娘？全然そうは見えないけど」

「間違いないね。あの時会ったから僕には分かるよ」

「ふん、関係ねえな。どうせ俺が勝つんだからな」

何故かLDS三人衆が居た。まあデュエルスペースに居るんだし、大体予想はつくけど

「その、噂の娘つてのやめてちょうだい。私には鏡 零華（かがみ れいか）っていう名前があるの」

「あら、ごめんなさい。零華さん。私は光津 真澄っていうの。よろしくね」

「そういえば名乗ってなかったね。僕は志島 北斗だ。今度こそ君に勝つ」

「俺は刀堂 刃ってんだ。お前の無敗記録、俺が終わらせてやるよ」

ふむ。やっぱりなかなか個性的な子達だ。特に髪の色。それ地毛なのかな？学校とかで言われなのかな？私は今は金髪だけど、ここだと逆に普通過ぎな感じがする…。
「で、こんなところに呼び出してどうしたいのかしら、赤馬さん？」

足音が聞こえて来たから多分赤馬だろうと思いつきながら足音がした方に顔を向ける。これで外してたら恥ずかしい所ではなかったけど、案の定当たったので良いとする

「なに、これから君にはこの三人とデュエルしてもらいたくてな」

「まあ予想はしてたけど。カードもくれるって言うんだし、別にいいよ。条件は」

「1対1で、君はあまり同じデッキは使わないでくれると嬉しいのだが」

「だからできるだけデッキを持ってこいって言うってたんだ。いいよ。回したいデッキは結構あるから。じゃあ早速始めましょ」

私はそう言ってデュエルディスクを構える

「じゃあ名乗った順からで、真澄ちゃんからやりましょ」

「あら、私から？」

「ええ、多分今セットされてるデッキはあなたと相性的にいいと思うから」

「そうじゃあ早速始めましょ」

「戦いの殿堂に集いしデュエリスト達が」

「…… モンスターとともに地を蹴り、宙を舞い」（やっぱり恥ずかしいな）

「フィールド内を駆け巡る」

「これぞデュエルの最強進化形！」

「アクシヨン」

「デュエル!!（デュエル）」

鏡LP4000VS真澄LP4000

「先行は私が貰います。私は『隣の芝刈り』を発動します」

「芝刈り？何でそんなカードを」

「このカードは自分のデッキ枚数が相手より多い時に発動できます。自分のデッキ枚数が相手と同じになるようにデッキの上から墓地に送ります。私のデッキは55枚。あなたは何？」

「35よ」

「なら20枚墓地に送ります」

「芝刈り落ち」

インフェルノイドモンスター

ベルゼブブ 1

シャイターン 2

デカトロン 1

アスタロス 2

ベルフェゴル 2

ヴァエル 1

ネヘモス 2

魔法

煉獄の虚無 2

ゴードン 1

隣の芝刈り 1

左腕の代償 1

煉獄の消華 1

煉獄の死徒 1

罨

仁王立ち 2

「さらに『煉獄の虚無』を発動して、カードを1枚セット、そして『煉獄の痼魃』を発動！まずは効果処理でデッキの上から6枚めくります。その中のインフェルノイドモンスターがある場合、それらを全て墓地に送り、残りはデッキに戻してシャッフルします」

『ルキフグス』

『隣の芝刈り』

『ベルフェゴル』

『アスタロス』

『ベルゼブブ』

『煉獄の狂宴』

「4枚を墓地に送り残りをデッキに戻します。その後、墓地に送ったモンスターの枚数につき、以下の効果を適応します。一体以上ならデッキからインフェルノイドモンスターまたは、『煉獄』魔法・罨1枚を手札に加えます。『煉獄の死徒』を手札に加えます。2体以上なら相手フィールドの魔法・罨を2枚まで手札に戻せますが、何も無いので意味はありません。3体以上なら相手はこのターンモンスター効果を使えません。4体以上なら、『デッキからインフェルノイドモンスターを4枚墓地に送ります。』インフェルノイド・リリース』を2体、アシユメダイ、ネヘモスを墓地に、その後手札、墓地から『インフェルノイド』融合モンスターによって決められた素材を除外してその融合モン

スター一体を融合召喚します」

「墓地から融合ですって!?!」

「墓地の『ネヘモス』3 『リリス』2 『アドラメルク』 『ヴァエル』 『ベルフェゴル』3 『アシメダイ』 『アスタロス』3 『ルキフグス』 『ベルゼブブ』2 『シャイターン』2 『デカトロン』、全てのインフェルノイドモンスターを除外して融合召喚」

墓地からあらゆる悪魔が現れ混ざり合う

「古の破壊神の名を冠す悪魔よ! すべてを滅ぼす死神となりて顕現せよ! 融合召喚!

『インフェルノイド・ティエラ』!」

全ての悪魔が混ざりあつたティエラが現れる。その姿はどこか神々しくも禍々しい、そんな感じがする

「ティエラの効果発動。ティエラの効果は融合召喚によって使われた素材の数によって以下の効果が適応されます。3種類以上ならお互いのエクストラデッキから3枚墓地に送ります。私は『旧神 ヌトス』2体、『PSY フレームロード・Ω』を墓地に」

「私は『セラフィ』と『ジルコニア』、『ラピスラズリ』を墓地に」

「5種類以上ならお互いのデッキの上から3枚を墓地に」

『妖精伝姫ーシラユキ』

『アドラメルク』

『ヴァエル』

「8種類以上ならお互いに除外されている自分のカードを3枚まで選んで墓地に戻します。『ネヘモス』を三体戻します。さらに10種類以上ならお互いに手札を全て墓地に送ります」

「ハア!?!」

これでお互いに手札0、墓地はそれなりの状況だ。

「さて、それじゃ次の処理に入ります。墓地の『旧神 ヌトス』の効果、このカードが墓地に送られた時フィールドのカードを1枚を選択して発動、そのカードを破壊します。『ティエラ』を選択して破壊します」

ティエラはいつの間にかあった雷雲から発生した雷にうたれて破壊された。

「さらに!墓地の『アドラメルク』は本来なら墓地のインフェルノイドモンスターを2体除外して特殊召喚するのですが、『煉獄の痲魘』の効果で墓地から『インフェルノイド』モンスターを除外するかわりに、除外されている『インフェルノイド』モンスターを墓地に戻します。よって除外されている『リリス』を2体墓地に戻します。そして『アドラメルク』の効果、自分フィールドのモンスターを一体リリースし、相手の墓地のカード1枚を対象として発動、そのカードを除外します。とりあえず、『ジエムナイト・ラズリー』を除外」

「クッ！」

「これをあなたの墓地が無くなるまで続けます」

「待ちなさい！それじゃああなたの除外されているモンスターが足りないでしょ！」

そう、彼女の墓地のカードは11枚、最低でも22枚の『インフェルノイド』モンスターが必要だが

「大丈夫ですよ。とりあえず可能な限り除外しますので除外されている『インフェルノイド』モンスターを14枚墓地に戻します。さらに墓地の『シラユキ』の効果、墓地の『インフェルノイド』モンスターを7枚除外して特殊召喚します。このカードは墓地、手札、フィールドのカードを7枚除外して特殊召喚することができます。除外されている『インフェルノイド』モンスターを2枚墓地戻して『アドラメルク』特殊召喚。『シラユキ』をリリースして除外。『シラユキ』の効果でフィールドの『アドラメルク』と墓地『インフェルノイド』モンスターを6枚除外して特殊、2枚戻して『アドラメルク』特殊、『アドラメルク』効果で『シラユキ』リリース除外、2枚戻して『アドラメルク』特殊自身をリリース除外、2枚戻して特殊リリース除外、2枚戻して特殊リリース除外、『シラユキ』効果『インフェルノイド』7枚除外して特殊、2枚戻して『アドラメルク』特殊、『シラユキ』リリース除外」

これで彼女の墓地は無くなった

「そして、墓地の『インフェルノイド』を7枚除外して『シラクキ』特殊。3枚を戻して『ネヘモス』を特殊召喚して効果発動、このカード以外のモンスターを全て破壊、『インフェルノイド』7枚除外して『シラクキ』特殊、3枚戻して『ネヘモス』特殊、モンスターを全て破壊します」

3：7の交換で少しづつ除外に『インフェルノイド』モンスターを貯めていく

「『インフェルノイド』7枚除外して『シラクキ』特殊3枚戻して『ネヘモス』特殊、モンスターを全て破壊、3枚戻して『ネヘモス』特殊、3枚戻して『ネヘモス』特殊、3枚戻して『リリース』特殊、3枚戻して『リリース』特殊。これで私のターンは終了します。満足・・・しただぜ」

鏡LP4000手札0

墓地インフェルノイド19

除外インフェルノイド1

モンスター

『インフェルノイド・ネヘモス』攻3000

『インフェルノイド・ネヘモス』攻3000

『インフェルノイド・ネヘモス』攻3000

『インフェルノイド・リリース』 攻2900

『インフェルノイド・リリース』 攻2900

魔法・罨

『煉獄の虚無』

『煉獄の痼魘』

真澄ちゃんは呆然としている。目が点になってるって言うのがぴったりなぐらいだ。けど、頭をふるって勢いよくカードを引いた

「私のターン！ドロー！よし！私は『ブラック・ホール』発動！お互いのモンスターを全て破壊するわ!!」

『『ネヘモス』の効果発動、魔法・罨カードの効果が発動した時、自分フィールドのモンスターを一体リリースして発動できます。その発動を無効にして除外します」

あつぶな。なんてガチカード使うのさって、なんか真澄ちゃんの顔がすごい引きつってるんだけど

「一体どうしろって言うのよ!!」

「あと3回うてばいいと思うよっ..」

「：： ターンエンド」

「私のターン、ドロー、とりあえず墓地の『インフェルノイド』モンスター6枚とフィールドの『煉獄の虚無』を除外して『シラユキ』を特殊召喚。バトル、『ネヘモス』でダイレクトアタック。」

恐ろしい悪魔がその身を起こし、息を吸い込みブレスを吐く。けど、ただではくならないと言わんばかりに真澄ちゃんは走ってアクシオンカードを發動する

「アクシオンマジック『回避』！相手の攻撃を一度だけ無効にする！」

「通しましょう。ですが1度だけです。『リリス』、彼女を囲みなさい」

2体の『リリス』はその蛇のような体で彼女を囲み込む、あの巨体に囲まれたら脱出不可能だろう

「そのまま『リリス』でダイレクトアタック」

「きやアアア!!」

真澄LP4000↓1100↓0

『WINNER 鏡』

いやあ大満足！インフェルノイドデッキはこの世界に来てから少しづつ強化していったから結構思い入れがあるんだよね

「ごめんなさい。何も出来なかったわ」

「全く、本当に何も出来てねえじゃねえか。いや、あの状況なら仕方ねえか」

「いや、誰でも無理だろあれは」

「負けたお前は黙ってろ。俺は勝つ。先行さえ取れば俺は絶対負けねえ!!」

「ふーん、そんなに自信があるんだ。いいよ、なら今度はそちに先行をあげよう」

「へ、いいのかよ。俺を舐めるとすぐに終わっちゃうぜ」

「いいよ別に、負ける気なんて微塵もないから」

なんて、売り言葉に買い言葉で刃くんが挑んできた。全く今日はデュエル三昧でいい日になるかも。なんて

先行？ナニソレオイシイノ？

真澄ちゃんとのデュエルを終えてこれから残りの二人とデュエルがある

「で、次はあなたでいいのね。刃君」

「ああ、ついでに先行ももらうぜ」

「ええ、大丈夫よ。せいぜい頑張ってちょうだいね」

「デュエル!!」

「オレのターン！俺は『X Xーセイバーボガーナイト』を召喚！そしてボガーナイトの効果発動！手札からレベル4以下の『Xーセイバー』モンスターを特殊召喚できる！俺は『X Xーセイバー フラムナイト』を特殊召喚！さらにオレの手札の『X Xーセイバー フォルトロール』は自分のフィールドに『Xセイバー』モンスターが2体以上いるなら特殊召喚できる！そして俺はレベル4のボガーナイトにレベル3のフラムナイトをチューニング！」

フラムナイトが3つの輪になりボガーナイトを包み込む

「光差する刃持ち屍の山を踏み越えろ！シンクロ召喚！出でよ、レベル7！『Xーセイ

「バーソウザ」！さらにフォルトリールの効果発動！墓地のレベル4以下の『Xーセイバー』モンスターを一体特殊召喚する！」

「それに対して私は手札の『朱光の宣告者』とデッキの『極光の宣告者』を墓地に送り、相手がモンスター効果を発動した時、その発動を無効にして破壊します」

「なんだと！」

「さらに墓地に送られた『極光の宣告者』の効果が発動、デッキから『宣告者』カードを1枚手札に加えます。『緑光の宣告者』を手札に」

「なら『死者蘇生』を発動！墓地のフォルトリールを特殊召喚する！」

「『緑光の宣告者』と『オネスト』を捨てて無効にします。さらにこれにチェインして墓地の『極光の宣告者』を除外して効果発動、『極光の宣告者』以外の『宣告者』モンスター2体を対象として発動します。そのモンスターを守備表示で特殊召喚し、以下の効果から一つを選択して適応します。私はその2体のみを素材としてシンクロ召喚します。まずは現れなさい『朱光の宣告者』、『緑光の宣告者』」

墓地から2体の宣告者が現れ一体は光の輪になりもう一体を包み込む

「ここより先は神の領域、その領域を犯せし者に裁きを！シンクロ召喚！レベル4『虹光の宣告者』！」

光が消えると、そこには虹色の宣告者がそこにいる。この子は本当に優秀な子だから

いるといたないのでは安心感が違う

「オレのターンに、シンクロを決めてきやがった、だと…」

「それで、あなたのターンですよ？」

「… ターンエンドだ」

刃LP4000手札1

モンスター

『Xーセイバー ソウザ』攻2500

魔法・罫

鏡LP4000手札3

モンスター

『虹光の宣告者』守1000

魔法・罫

「では。私のターン、ドロー私は『儀式の下準備』を発動、デッキから『宣告者の預言』と、『神光の宣告者』を手札に加えて『宣告者の預言』を発動、手札の『朱光の宣告者』とフィールドの『虹光の宣告者』をリリースして『神光の宣告者』を特殊召喚、さらに『宣告者の預言』と『虹光の宣告者』の効果発動、デッキから『神光の宣告者』をサーチ

して、その後墓地の『朱光の宣告者』を回収、『朱光の宣告者』を召喚して『朱光の宣告者』と『神光の宣告者』でシンクロ、現れなさい。『PSYフレイムロードΩ』!そしてバトル、Ωでソウザを攻撃!

「くっ!」

刃LP4000↓3700

「これでターンエンド」

鏡LP4000手札5

モンスター

『PSYフレイムロードΩ』 攻撃力 2800

魔法・罫

「オレのターン!ドロー!」

「スタンバイフェイズにΩの効果発動、除外されているカードを一枚墓地に戻します。

『極光の宣告者』を墓地に戻して『極光の宣告者』の効果発動、このカードを除外して墓地の『朱光の宣告者』と『神光の宣告者』を特殊召喚してシンクロ、現れなさい『PSYフレイムロードΩ』! (2体目)そしてこっちのΩの効果、『極光の宣告者』を墓地に

戻します」

「テンメエ、また俺のターンに！」

「そうですよ。あなたのターンです。はやく進めてください」

「クソ！モンスターをセットしてターンエンドだ！」

刃LP3700手札1

モンスター

伏せ1

魔法・罫

「私のターン、ドロー『極光の宣告者』を除外して『極光の宣告者』と『朱光の宣告者』を特殊召喚してシンクロ、三度現れなさい『PSYフレイムロードΩ』！そしてΩを除外してあなたの手札を一枚除外します。そして『宣告者の預言』を発動、手札の『神光の宣告者』を墓地に送って『神光の宣告者』を特殊召喚。バトル、『PSYフレイムロードΩ』でセットモンスターを攻撃！」

「残念だったな！俺のセットモンスターは『パシウル』！『パシウル』は戦闘では破壊されない！」

「あらら、じゃあこれでターンエンド」

鏡LP4000手札³

『PSYフレイムロードΩ』攻撃2800

『PSYフレイムロードΩ』攻撃2800

『神光の宣告者』攻撃1800

「俺のターン。ドロー」

「スタンバイフェイズ、2体のΩの効果で私の墓地の『極光の宣告者』とあなたの除外されているカードを墓地に戻します。これであなたの手札は戻ってきませんね」

「クソがあ!カードを一枚セットしてターンエンドだア!」

刃LP3700手札0

『X-セイバー パシウル』守備0

魔法罫

伏せ1

「私のターン、ドロウ。そしてスタンバイフェイズにあなたの『パシウル』の効果であな
たは1000ポイントのダメージを受ける効果が発動されますが、『神光の宣告者』の効

果を発動、手札の天使の代わりに『極光の宣告者』を墓地に送ってその発動を無効にして破壊します。そして墓地に送られた『極光の宣告者』の効果が発動、デッキから『宣告者』カードを手札に加えます。『紫光の宣告者』を手札に加えます。さらに『極光の宣告者』を除外して『朱光の宣告者』と『虹光の宣告者』を特殊召喚してシンクロ、『瑚之龍』をシンクロ召喚。そしてΩが帰還します。メインフェイズ、『瑚之龍』の効果で手札を一枚捨ててその伏せを破壊」

「チッ」

「バトル、全員で総攻撃」

「うわあああ」

刃LP3700↓1100↓1700↓3500↓5900

『WINNER 鏡』

「次は僕の番だ！」

「あれ？あなたは」

「そう！前に君に挑んで負けた、だがあれからデッキを改良しプレイングだっで見直したんだ！今度こそ君に勝ってみせる！」

「リベンジマッチって事ね。いいよ、君とは前にデュエルしたデッキで相手してあげる」

更地に…

「今度は僕が勝つ！」

「やってみなさい。私は逃げも隠れもしないからね。あ、先行は私が貰うわよ」

「大丈夫だ。それじゃ」

「デュエル!!」

「私のターン、カードを4枚伏せて『命削りの宝札』を発動、手札が3枚になるようにドローします。3枚ドロ、その代償に私はこのターン特殊召喚出来ず、あなたに与えられるダメージは0となります。『トリオンの蟲惑魔』を召喚、そして『強欲で謙虚な壺』を発動、デッキトップを3枚めくってその中から一枚を手札に加えます。『禁じられた聖杯』を手札に加えてセットしてターンエンド。そしてエンドフェイズに私の手札をすべて墓地に送ります」

鏡の手にギロチンが現れ残りの手札を切り落とした

鏡LP4000手札0

『トリオンの蟲惑魔』 攻撃1600

魔法・罨

伏せ5

「僕のターンドロ―！」

「スタンバイフェイズ、リバーズカードオープン。『禁^マじ^スら^クれ^テた^チ聖^エ杯^ン』！『トリオンの蟲惑魔』を対象に発動します。そして『トリオンの蟲惑魔』が対象になった時、それを無効にしてEXデッキの『サラの蟲惑魔』をX召喚します」

トリオンの足元に蟻地獄が現れトリオンに聖杯が渡されると、トリオンはその中に元氣よく飛び込んでいき、蟻地獄の中から現れたのはサラの蟲惑魔だ

『サラの蟲惑魔』 攻2500

「出たな、キミのエースモンスター！だが失敗だったな！そいつの強みは召喚する時に相手のカードをX素材にすることだ！僕は『セイクリッド・グレディ』を召喚！その効果で手札から『セイクリッド・カウスト』を特殊召喚」

『ERROR グレディの効果は発動出来ません』

「・・・ どういうことだ」

『『サラの蟲惑魔』の効果ですよ』

「そんな、そいつの効果はトラップカードの効果を受けない効果と、オーバーレイユニッ

トを使って蟲惑魔を召喚する効果じゃ」

「それだけって誰が言ったんですか？この娘にはもう一つ効果がありましたこの娘がモンスターゾーンに存在する限り、お互いに「蟲惑魔」モンスター以外のモンスターを特殊召喚出来ず、フィールドで発動する効果を発動出来ません」

そう、これが『サラの蟲惑魔』の真価なのだ。このカードはモンスターゾーンに存在する限り、相手も蟲惑魔デッキではないなら完全に封殺してしまう。『虚無空間』と『威光魔人』がこれ一枚で、しかも自分の動きは阻害されることはないのだ。この時北斗の手札には『海亀壊獣ガメシエル』があるのだが、このカードは相手のモンスターをリリースして特殊召喚出来るのだが特殊召喚を封じられているので相手のモンスターをリリースすることは出来ないのだ

「…… インチキ効果も大概にしろ!!」

「いいこと教えて上げましょう。対策出来ない方が悪い」

「…… ターンエンド」

北斗LP4000手札5

モンスター

『セイクリッド・グレディ』攻撃1600

魔法・罫

「ブラフくらい伏せた方がいいですよ。私のターン、ドロー『サラの蟲惑魔』の効果、X素材を取り除いて、デッキから『トリオンの蟲惑魔』を召喚します。そしてトリオンの効果でデッキから『狡猾な落とし穴』を手札に加えます。バトル、『サラの蟲惑魔』で『セイクリッド・グレディ』を攻撃」

サラ攻撃2500VSグレディ攻撃1600

「クッ！」

北斗4000↓3100

「トリオンでダイレクトアタック」

トリオンが跳んで北斗に向かってかかと落としをくりだした... すごく、活発的です
「グアー！」

LP3100↓1500

『月の書』をトリオンを対象にして発動、そして『トリオンの蟲惑魔』が対象になった時、EXデッキの『サラの蟲惑魔』をX召喚。これはバトルフェイズ中なので攻撃できます。『サラの蟲惑魔』でダイレクトアタック」

「うあああ！」

北斗LP1500↓0

ふう、流石に3連戦は疲れた。まあ楽しかったけどさ

「で、これでいいですか？赤馬さん」

「ああ、十分だ」

「そうですか、それじゃあ今日は帰っていいですか？流石に疲れました」

「帰る前に一つ質問に答えてくれ、今度、ここで大きな大会をひらこうと思っっているんだが、我社の推薦枠として大会に出てくれないか？」

ふむ、この時期の大会？ああ、チャンピオンシップだっけ、バトルロワイヤルの

「うーん、出てもいいけど、私のデツキは基本タイマン用だからいい成績は残せないかもよっ。」

「ならそれでいいさ。参加してもらいたいのは君の実力を見極める為なのだから」

「あら、彼らとのデュエルでは見極められなかったの？」

「ああ、残念だが、彼らでは君を測ることは出来なかったよ。だから、その大会で君を測ることか出来る者が現れることに期待している」

「そうですか、それじゃその時はまた違うデツキで行きますよ」

「…君は何個デツキを持っているんだい？」

「んー大体10個ぐらいですね」

「そんなに持って、使いこなせるのか？」

「まあ確かに使うデツキと使わないデツキがありますが、一応どれも使えるようにしてありますよ。でもういいですよ。帰って寝たいんですけど」

「まだ昼になるぐらいなのだが、まあ分かった送らせよう」

そう言うと赤馬は中島を呼び車で私を家まで送るように指示をだした。はあ疲れた。そろそろお昼だし、帰ったらご飯食べて寝るZ Z Z

エンタメとは…

LDSでのデュエルから多分3日ぐらい（一週間たってます。ほとんど家で寝て過ごしてるから体感時間おかしいんですこの娘）たつた時にまた呼び出された。何でもLDSの人たちを襲った犯人見つけたからお前もこいつてことらしい。めんどくさかったけど、LDSに所属してるんだから行かないといけない。てか、なんかあつたよね原作イベントで、てことはやつと主人公遊矢に会えるのかな？会いたい気持ち半分、会いたくない気持ち半分ってことかな。この時期の遊矢君独りよがりな所あつた気がするし、あれ、もう治つてたつけ？むしろ増長してたんだつけ？まあいいや呼ばれたところで私は何もしないし。

で、そういう訳でやってきたよ『遊勝塾』LDSの3人組と赤馬母も一緒だよ！それから赤馬母が柀父となんやかんや話してLDSと遊勝塾で三本デュエルすることになった。で、何やかんやあつて1勝1敗1引き分け。普通にやつたら引き分けなんてなかなかないよね。引き分けしようと思つたら『自爆スイッチ』ぐらいしかないんじゃないかな？寝てたから見てないんだよね。そしてこれから延長戦で私と遊矢君とでデュエルすることになった。私的には紫雲院君でいんじゃないかなって言ったんだけど、赤

馬母がヒステリック起こしてめんどくさかったからそのまま遊矢君とデュエルするこ
とにした。

遊勝塾のデュエルスペースで私と遊矢君は向かい合って立つ。

「俺は榊 遊矢、よろしく」

「・・・ 鏡、よろしく」

なお、ここで初めて顔を合わせました。これまで寝てたからね仕方ないね

「戦いの殿堂に集いし決闘者デュエリストたちが！」

「・・・ モンスターと共に地を蹴り宙を舞い」

「フィールド内を駆け巡る！」

「これぞデュエルの最強進化系」

「アクション・・・」

「アクション・・・」

「デュエル(!!)」

「Ladies and Gentleman!これより私、榊遊矢によるエンタメデュエルをご覧に入れましょう!」

『ギター!』

『やっっちゃえ遊矢!』

『遊矢のエンタメ!痺れるう!』

「まずは、スケール1の『星読みの魔術師』と、スケール8の『時読みの魔術師』でペンデュラムスケールをセッティング!」

遊矢の左右に光の柱とその中に星読みと時読みの魔術師が現れる

「これによってレベル2から7のモンスターが同時に特殊召喚可能!揺れる、魂のペンデュラム!天空に描け、光のアーク!ペンデュラム召喚!こい!俺のモンスター達!レベル3『EM デイスカパーヒッポ』そして、レベル7世にも珍しき2色の眼を持ちし竜、『オッドアイズ・ペンデュラム・ドラゴン』!さらに『EM ドクロバットジョーカー』を召喚!ドクロバットジョーカーの効果発動!デッキから『EMドクロバット・ジョーカー』以外の『EM』モンスター、『魔術師』Pモンスター、『オッドアイズ』モンスターの内、いずれか1体を手札に加えます!『EM ギタートル』を手札に!私はこれでターンエンドです!」

遊矢LP4000手札1

モンスター

『EM デイスカバーヒツポ』守800

『EM ドクロバットジョーカー』攻1800

『オットアイズ・ペンデュラム・ドラゴン』攻2500

魔法罫

ペンデュラムスケール

『星読みの魔術師』1

『時読みの魔術師』8

「私のターンドロロー、『竜呼相打つ』を発動、デッキから「竜剣士」Pモンスター1体と「竜魔王」Pモンスター1体を選んで相手に見せて、相手はその中からランダムに1体選びます」

「ペンデュラムモンスターだって!？」

『ええ!?!』

『あの人も遊矢と同じ召喚を!?!』

目の前に裏側になったカードが二つ現れる

「さあ、はやく選んでください」

「… 右のカードだ」

「右ですね。なら『竜剣士ラスターP』をペンデュラムスケールにセットします。残りは表側でEXデッキに加えます。そして片方のスケールに『EM ペンデュラムマジシャン』をセット、そしてラスターPの効果、もう片方のスケールのカードを破壊して同名カードをデッキからサーチ、ペンデュラムマジシャンをサーチ、そしてスケールに『Em ヒキグルミ』をセットイング、そしてヒキグルミの効果発動、お互いのペンデュラムゾーンのカードをすべて破壊します」

「何だって!?!」

「さらにその後、破壊したカードの数によって以下の効果を適用できます。一枚以上ならデッキから『Em』モンスターを墓地に送れます。『Em ダメージグラブ』を墓地に、二枚以上なら『Em』モンスターをペンデュラムゾーンにセットできます。『Em

ヒグルミ』をセット、三枚以上ならデッキから『Em』モンスターを特殊召喚します、『Em ヒグルミ』を特殊召喚、四枚ならデッキからペンデュラムモンスターを手札に加えます。『EM モンキーボード』を手札に」

『流石だな』

『ええ、ペンデュラムカードは驚いたけど彼女なら使えても不思議じゃなかったね』

『てか、いつになつたらペンデュラム召喚すんだよ。まだ回りそうぞ』

「そして手札のペンデュラムマジシャンをセット、これでレベル3と4のモンスターが同時に召喚可能！揺れなさい、魂のペンデュラム！破滅より現れなさい我が下僕！ペンデュラム召喚！まずはレベル4『竜剣士ラスターP』！『竜魔王ベクターP』！『EMペンデュラムマジシャン』！そして世紀末からの使者『EMヒキグルミ』！」

これで私の場にはレベル4のモンスターが五体揃つた、しかも召喚権も残つてる。手札は3枚

「そして特殊召喚に成功したペンデュラムマジシャンと、ペンデュラムゾーンのペンデュラムマジシャンの効果発動、フィールドのヒキグルミとペンデュラムゾーンのペンデュラムマジシャンを破壊、そして破壊した数だけデッキから『EM』モンスターを手札に加えます。『EM ドクロバットジョーカー』と『EM ギタートル』を手札に加えます。ペンデュラムゾーンのペンデュラムマジシャンの効果は破壊されたので発動しません。その後、破壊されたヒキグルミの効果でデッキからヒキグルミを特殊召喚します。そしてレベル4の『Em ヒキグルミ』二体と、ベクターP、三体でオーバーレイ」

ヒキグルミとベクターPが光の玉になり黒い渦の中に入る

「現れよNo. 16！汝は色を支配せしもの、今こそ牢獄から解き放たれ世界にその身を現せ！ランク4『色の支配者 ショックルーラー』！さらに『EM ドクロバット

『ジョーカー』を召喚！そして効果発動、デッキから『EM リザードロー』を手札に、そして『EM モンキーボード』をペンデュラムスケールにセット、そしてモンキーボードの効果、デッキから『EM』を手札に加えます。『EM ペンデュラムマジシャン』を手札に、そして『EM ペンデュラムマジシャン』に『竜剣士 ラスターP』をチューニング、剣士の伝説はここより始まる、さあ伝説の幕を切り開きなさい！シンクロ召喚！レベル8『爆竜剣士 イグニスターP』！そしてイグニスターPの効果発動、デッキから『竜剣士』モンスターを準備表示で特殊召喚します。『竜剣士 ラスターP』を特殊召喚、なお、この効果で特殊召喚したモンスターはシンクロ素材に出来ません。そしてイグニスターPの効果発動、ペンデュラムスケールのヒグルミを破壊してイグニスターP自身をデッキに戻します。そしてヒグルミの効果発動、デッキから3枚目のヒキグルミを特殊召喚、そしてヒキグルミの効果発動、ペンデュラムスケールのモンキーボードとフィールドのドロクロバットジョーカーを破壊、そしてデッキから『Em ダメージジャグラー』と『Em トリッククラウン』を特殊召喚、そしてレベル4のダメージジャグラーとトリッククラウン二体でオーバーレイ、エクシーズ召喚、ランク4『鳥銃士カステル』カステルの効果、オーバーレイユニットをふたつ使って相手のモンスターを一枚デッキに戻す、『オットアイズ・ペンデュラム・ドラゴン』には消えてもらいます」

「うわアッ！」

カステルが舞い上がり銃を構えてオットアイズに打つ、打った玉は凄まじい風を放ちオットアイズを吹き飛ばしデツキに返した

「そして墓地のトリッククラウンの効果、このカードが墓地に送られた時、墓地の『EM』を一体蘇生します1000ポイントのダメージを受けます。トリッククラウンを蘇生して1000ポイントのダメージを受けます。そして『竜剣士 ラスターP』と『EM

ドクロバットジョーカー』をリリースして融合召喚！剛力を持つ竜よ、今こそ我が呼びかけに答え姿を現せ、融合召喚！現れよ『剛竜剣士 ダイナスターP』そして墓地のダメージジャグラーの効果発動、このカードを除外してデツキから『EM』モンスターを手札に加えます。『EM ハットトリックカード』を手札に、そして手札のハットトリックカードはフィールドにモンスターが2体以上あれば特殊召喚出来る。ハットトリックカードを特殊召喚、さらにレベル4のヒキグルミとハットトリックカードでオーバーレイ、2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築、現れる、No. 39！我が戦いは、ここより始まる。白き翼に望みを託せ。エクシーズ召喚！光の使者、『希望皇 ホープ』！さらにホープ一体でオーバーレイネットワークを再構築、エクシーズ召喚！全てを切り裂く一筋の閃光！あなたの前に絶望の闇は振り払われる！ランクアップ！エクシーズチェンジ！現れよ！『SNo. 39 希望皇 ホープ・ザ・ライトニング』!!」

鏡LP3000 手札5

モンスター

『色の支配者 ショックルーパー』攻2300 ORU3

『剛竜剣士ダイナスターP』攻2000

『SN0.39 希望皇 ホープ・ザ・ライトニング』攻2500 ORU3

『鳥銃士 カステル』攻2000 ORU0

魔法罫

ペンデュラムスケール

皆が呆然としていた。まあ今の時期にこれやったらそうなる予感はしてた。ペンデュラムからエクシーズ、シンクロに繋げるのはもうちよつと先だった筈だし、それにリンクアップもまだだったよね

「フウ、満足した。それじゃ」

私は今満面の笑みを浮かべているだろう

「……あなたも笑顔にしてあげる

「バトルフェイズ前にショックルーパーの効果発動、素材を一つ取り除いて、モンスター、魔法、罫の一つを選びます。選ばれた種類のカードは次の相手ターン終了時まで発動することができません。私は魔法カードにします」

「何だって!?!それじゃアクシオンカードも」

「当然発動出来ません。しかし...」

いつまでたつてもシヨックルーラーが動く気配がない。ORUも動いてないし、お互いのモンスターも動いていない。これはもしや、そう思ったらまるでブレーカーが落ちたようにモンスターたちが突然消えた。

「どうしたんだ!?!」

『すまない二人とも、デュエルは中止だ。機械の処理が追いつかなかつたみたいでな。熱暴走を起こしてしまつたんだ。これ以上のデュエルは続行不可能だ』

ああやっぱりか、シヨックルーラーを召喚した時に落ちるんじゃないかと思つてたけど、大丈夫だつたから問題無しつて判断したのはダメだつたかな。調子にのつてガン回ししちゃつたし

「はあ...デュエル出来ないなら私もういらないよね。もう帰るから...眠い。頭使うと...眠くなるんだよね。気分も最悪だし」

そう言つて私は遊勝塾を出てLDSの車に乗る。少しすると三人衆が来てさらに待つと赤馬親子が来た。というかいたんですね社長、全然気づかなかつたよ。

少ししたら大会が開かれるんだし、それまでは英気を養つておこう。そう理由でおやすみなさいZZZZついたら起こしてえZZZZ

今更だけどキャラ紹介だお！

鏡 零華（かがみ れいか）

年齢 14歳

学歴 通信教育（前世は大学卒業）

性別 美少女

身長 145cm

体重 ??（何か赤いので塗りつぶされて読めない…）

スリーサ（rk）

称号 『世紀末からの使者』『常勝無敗の決闘者』

転生特典？

前世で自分が使っていたデッキ

世紀末デッキ（トーナメントに出ているデッキとカード、エキシビジョン戦のカード含む）

普段は半目を開けていつも眠そうにしてるタレ目。

デュエル中は目をぱっちり見開きやる気全開の幼女。(普段のイメージはガヴリールドロップアウトのガヴリールが一番イメージ的に近いです)

転生者だが神には会っていない。前世は遊戯王をやっていたがいわゆるガチ勢ではなくネタを多めに使っていた。環境デッキもそれなりに回していた。転生してからは世紀末デッキを多少改造したりしながらデュエルをしたり、カードショップをうろついたりデュエルをしたり、気分で家の周りをうろついたりしては適当なデュエリストにプレミしたりする。原作知識のおかげで相手のデッキタイプがわかる時はそれに対して相性が良いデッキを使う

こっちに転生してからの金は世紀末デッキの他にあった自分が使っていたデッキのカードを売ったりデュエルに勝って得られるDPを使って生活している(この世界ではレッドアイズが一枚うん百万もするのでそれ一枚売れば贅沢しなければ1年は余裕で過ごせます)

そんなわけでもないも家は家でだらけきった生活をしているため体力は極端に少なく、アクシオンデュエルは苦手分野に含まれる。改善する気はなし、将来売るカードが無くなったら適当にプロになろうと考えていた。(どうやってプロになるか知りませんが、

最悪赤馬社長から聞いてついでに推薦みたいな賞えばなれるだろう程度には考えています)

――

はい、鏡ちゃんは今髪幼女なのでした。ん？誰得だつて？俺得に決まってるだろjk
 金髪幼女に蔑まれた目で見下されたい(ㄥ ㄩ、三、ㄩ、*) h s h s そんな願望が具現
 化してしまったのだ！ん？ちよつと待とうか、待つてくたさい鏡様、まずはその携帯で
 110番を押さないでください。その携帯を下ろしてください。え？足りないつて？
 もつと必死につて？勘弁してください許してくださいなんでもしますから(なんでもす
 るとは言つてない) へ？通報した？：：ファンファンファン：：：ニイゲルンダヨオス
 モーキーε≡≡≡へ(ㄥ ㄩ、) ノ

開幕!! 舞網もちもちシッブ

遊勝塾とのデュエルから少したつて舞網チャンピオンシップが始まった。私は社長の推薦でシード枠での参加だから勝率5割とか公式戦6連勝の参加条件はスルーできただから楽で良かった。まあ勝率に関しては今まで負けなしだから勝率10割なんだけどね。

『では、ジュニアユース選手権、二回戦、第六試合! 武闘派で知られる梁山泊塾! 前大会準優勝者で1回戦では圧倒的なまでの強さを見せつけた勝闘 勇雄選手! 対するは今大会のメインスポンサー赤馬 零児さん推薦の謎のデュエリスト! 鏡 零華選手! 今では、フィールド魔法の選択です! フィールド魔法、仙界竹林、発動!』

スタジアムが無数の岩山に囲まれ、大量の岩の足場と共に浮かぶ雲の上の竹林へと変化していく。相手は勝闘かくりアルファイトは無理なんだよお〜ていうか勝闘の相手遊矢じゃなかったっけ?

「戦いの殿堂に集いしデュエリストたちが！」

「… モンスターとともに地を蹴り、宙を舞い」

『フィールド内を駆け巡る！』

『見よ、これぞ、デュエルの最強進化形』

『アクション』

「デュエル！」

初手を確認する。先行は… 私か、これは

「私は手札の『屍汰ガエル』の効果を発動。手札のこのカードと水族モンスターの『貫ガエル』を墓地に送り、デッキから『屍汰ガエル』以外の『ガエル』モンスターを特殊召喚します。『鬼ガエル』を特殊召喚して効果発動、デッキからレベル2以下の水族・水属性モンスター『屍汰ガエル』を墓地に送って、墓地の『屍汰ガエル』の効果でデッキからレベル2以下の水族・水属性モンスター2体『グレイドル・スライムJr.』と『粋カエル』を墓地に送って発動します。『屍汰ガエル』を特殊召喚、更に墓地の『屍汰ガエル』を除外して『粋カエル』の効果で自身を特殊して除外された『屍汰ガエル』の効果発動。デッキから『屍汰ガエル』以外の水族モンスター『グレイドル・スライムJr.』を手札に加えます。そしてレベル2の『屍汰ガエル』と『粋カエル』2体の水族モンスターでオーバーレイネットワークを構築！相手の全てを持ち帰れ！エクシーズ召喚！ランク2『餅カエル』！」

『餅カエル』 ランク2 水族 水属性 攻2200

「さらに私は『鬼ガエル』の効果発動、自身を手札にもどしてこのターン通常召喚に加えて1度だけ『ガエル』モンスターを召喚できるようになります。そして私はこのターンまだ通常召喚を行っていない。私は『グレイドル・スライムJr.』を通常召喚して効果

発動、墓地の『グレイドル・スライムJr.』を特殊召喚してさらにこの効果で特殊召喚したモンスターと同じレベルのモンスターを手札から特殊召喚出来ませす。『グレイドル・スライムJr.』のレベルは2、よって手札の『鬼ガエル』を特殊召喚して効果、『粹カエル』を墓地に送って墓地の『貫ガエル』を除外して『粹カエル』を特殊。そして『粹カエル』と『グレイドル・スライムJr.』でオーバーレイ！エクシーズ召喚！ランク2『餅カエル』！さらに『グレイドル・スライムJr.』と『鬼ガエル』でオーバーレイ！エクシーズ召喚！ランク2『餅カエル』！これで私はターンエンド！

鏡LP4000 手札3枚

モンスター

『餅カエル』 攻2200

『餅カエル』 攻2200

『餅カエル』 攻2200

魔法・罫

0

除外

『貫ガエル』『屍汰ガエル』

この盤面、もう勝ったね

『何という事でしょう! 鏡選手! 1ターンで3回ものエクシーズ召喚を決めてきたア! これは勝鬨選手厳しい状況だア!』

「ドロー」

「スタンバイフェイズに『餅カエル』の効果発動、素材を1つ取り除いてデッキから『ガエル』モンスターを1体特殊召喚できる。『魔知ガエル』を特殊召喚、さらにもう1体の『餅カエル』の効果発動、素材を1つ使って『魔知ガエル』を特殊召喚」

『鏡選手さらに相手ターンにモンスターを出してきたあ!』

「自分は手札から魔法カード『融合』を発動する。手札の『地翔星」

「待った、『融合』にチェーンして『餅カエル』の効果発動、相手がモンスター効果・魔

法・罨カードを発動した時、自分の手札・フィールドの水族モンスター1体を墓地に送ってその発動を無効にして破壊します。手札の『豪雨の結界像』を墓地に送って無効にします。その後、破壊したカードを自分フィールドにセットできます」

「なんだと?!」

『何という事でしよう!あのモンスターは水族モンスターを墓地に送ることで相手の発動を無効にする効果を持っていたあ!しかもそのモンスターが3体!勝鬨選手はあと2回もあのモンスター効果を乗り越えなければなりません!』

「クツ!ならば『地翔星ハヤテ』を召喚!このカードは相手フィールドにのみモンスターが存在する場合、リリース無しで召喚できる!さらに『天雷星センコウ』の効果発動!このカードを特殊召喚する!」

「『天雷星センコウ』にチェインして『餅カエル』の効果発動、自身をリリースして『天雷星センコウ』を破壊して自分フィールドにセットします。さらに墓地に送られた『餅カエル』の効果、墓地の水属性モンスター『屍汰ガエル』を手札に加えます」

「ならば手札の『地雷星トドロキ』の効果発動!手札のモンスター『天融星カイキ』を墓地に送って特殊召喚!この効果で特殊召喚したこのカードの攻撃力は500ポイント下がる、そして『死者蘇生』を発動!」

「通しません。『死者蘇生』にチェーンして『餅カエル』の効果発動、自身をリリースして『死者蘇生』を破壊して自分フィールドにセットします。さらに『餅カエル』の効果、『グレイドル・スライムJr.』を手札に加えます」

「これでもう妨害はない!バトルフェイズ!『地雷星トドロキ』の効果発動!LPを500支払い融合召喚を行う!『地雷星トドロキ』と『地翔星ハヤテ』で融合!轟の星、地を跳び、今一つとなりて、悠久の覇者たる星と輝け!融合召喚!来い『覇勝星イダテン』!」
勝鬨LP4000↓3500

『覇勝星イダテン』 レベル10 光属性 戦士族 融合 レベル5以上の戦士族モンスター×2

『覇勝星イダテン』の効果、デッキから戦士族・レベル5のモンスター『地翔星ハヤテ』を手札に加える!バトル!」

「残念ですがフィールドに『魔知ガエル』がいる限り、あなたは他のモンスターに攻撃できません。『魔知ガエル』が2体いるのであなたは私のモンスターに攻撃出来ません」

「馬鹿な……それでは」

『な、なんとということでしょう。勝鬨選手が鏡選手の『餅カエル』による3回の妨害を乗り越え『覇勝星イダテン』を融合召喚したものの、これでは攻撃ができません』

そう、これももちもち魔知ロック。『餅カエル』の数だけ相手のカードを奪ってその上次のターンのリソースを確保しながら相手に攻撃もさせない極悪ロックだ

「ターンエンドだ」

勝鬨LP3500 手札1枚

モンスター

『覇勝星イダテン』 攻3000

魔法・罨

0

「相手エンドフェイズ、除外されている『屍汰ガエル』の効果発動、除外されているこのカードと墓地の水族モンスター『餅カエル』をデッキに戻します。私のターン、ドロ、スタンバイ『餅カエル』の効果、素材を1つ使って『鬼ガエル』を特殊、効果で『屍汰ガエル』を墓地に送ってメインフェイズ、墓地の『屍汰ガエル』を除外して『粹カエル』の効果で自身を特殊して除外された『屍汰ガエル』の効果発動。デッキから『海亀壊獣ガメシエル』を手札に加える。『鬼ガエル』と『粹カエル』でオーバレイ！エクシーズ召喚！ランク2『神騎セイントレア』そしてあなたの『死者蘇生』を発動、『餅カエル』を蘇生、『天雷星センコウ』を反転召喚してバトル。『神騎セイントレア』で『覇勝星イダテン』を攻撃」

『鏡選手攻撃力2000の『神騎セイントレア』で攻撃力3000の『覇勝星イダテン』を攻撃したぞお！』

「どういふつもりか知らんが『覇勝星イダテン』の効果発動！このカード以下のレベルを

持つ相手モンスターとバトルする時、その相手モンスターの攻撃力をダメージ計算時のみ0にする！」

「エクシーズモンスターはレベルを持たないモンスター、よって『覇勝星イダテン』の効果は発動できません」

「なに！レベルを持たないならレベル0ではないのか！」

『神騎セイントレア』は戦闘で破壊されません。そして『神騎セイントレア』の効果発動、相手モンスターと戦闘を行ったダメージステップ終了時、素材を取り除いてそのモンスターを手札に戻します」鏡LP4000↓3000

『イダテン』が、クソ！」

勝鬨がいきなり走り出した。アクションカードかな？

「無駄なことを…『餅カエル』でダイレクトアタック」

「アクションマジック『回避』!」

「『餅カエル』効果で『海亀壊獣ガメシエル』を墓地に送って無効にしてセット」

「グハツ!」LP3500↓1300

「こいつでとどめをさしてあげましょう、『天雷屋センコウ』でダイレクトアタック」

「ぐあああああ!!」LP1300↓0

『決まったあ!勝者!鏡 零華選手!』

うーん、まさか3妨害を乗り越えてイダテンを出して来るとは思わなかったな。これはもつと構築を考えたほうがいいかな、勝ったからいいけど問題は次のバトルロイヤルか、さて次はなにをしようかな

バトルロイヤル開幕

「皆様あ！お待たせしました！これよりジュニアユースを勝ち残った16名の勇者によるバトルロイヤルを行います！」

司会のニッコリ何たらがそう宣言し、ルールを発表する

「参加者は街に出てペンデュラムカードを2枚以上見つけてからデュエルすること！勝負はそのペンデュラムカード賭けたアンティールで行われます！勝者は敗者から賭けた枚数のカードを受け取りその枚数を競っていただきます！勝負は24時間！」

（これ24時間とか簡単に言ってるけどご飯やお風呂、睡眠はどうするつもりなのさ。見る方も丸一日みっぱなしはきついんじゃないの？）

「また、デュエルに際しまして街には4つのエリアを持つフィールド魔法『ワンダー・カルテット』が発動します。参加者はどのエリアで戦っていただいても構いません。開始時間が迫って参りました！皆さんはデュエルディスクのご用意を！」

参加者のみんながそう宣言されるとデュエルディスクを構える

「戦いの殿堂に集いし決闘者デュエリストたちが！モンスターと共に地を蹴り宙を舞

い、フィールド内を駆け巡る！これぞデュエルの最強進化系！アクション！デュエル！」

こうしてバトルロイヤルが始まった

「…これで2枚」

私は古代遺跡エリアにきた。というか残りのエリア火山と氷河とジャングルだから体力持たなそうだし一番まともなエリアであるここしか選択肢が私にはないんだ

「…で

私は2枚揃ったけどあなたたちは2枚以上あるの？ええつと… ナイト何たら」
「ナイトオブデュエルズだ！いいだろうまずは貴様からだ！」

私の前には鎧つばい服装の男が3人、こいつら騎士を名乗っておいて騎士道精神とかないんだらうか、ないんだな（確信）

「「「デュエル!!!」」」

鏡LP4000VSナイトALP4000VSナイトBLP4000VSナイトCLP4000

「私のターン、私は『名推理』を発動、レベルは？」

「俺はレベル8を宣言する」

「じゃあ通常召喚可能なモンスターが出るまでめくっていきます」

『煉獄の消華』『煉獄の虚無』『左腕の代償』『インフェルノイド・シャイターン』『煉獄の狂宴』『インフェルノイド・リリス』『インフェルノイド・アドラメレク』『墓穴の指名者』『左腕の代償』『隣の芝刈り』『インフェルノイド・ヴァエル』『隣の芝刈り』『インフェルノイド・シャイターン』『煉獄の狂宴』『インフェルノイド・アシユメダイ』『煉獄の死徒』『インフェルノイド・デカトロン』

『インフェルノイド・デカトロン』を特殊召喚、効果は使いません。『煉獄の虚無』を發動して『煉獄の痼魃』を發動！効果処理でデツキの上から6枚めくります。その中のインフェルノイドモンスターがある場合、それらを全て墓地に送り、残りはデツキに戻してシャツフルします」

『名推理』『インフェルノイド・ルキフグス』『名推理』『インフェルノイド・ルキフグス』『インフェルノイド・ベルゼブル』『インフェルノイド・アドラメレク』

「あぶなギリギリだったかゝ4枚を墓地に送り残りをデツキに戻します。その後、墓地に送ったモンスターの枚数につき、以下の効果を適応します。一体以上ならデツキからインフェルノイドモンスターまたは、『煉獄』魔法・罨1枚を手札に加えます。『煉獄の死徒』を手札に加えます。2体以上なら相手フィールドの魔法・罨を2枚まで手札に戻せませんが、何も無いので意味はありません。3体以上なら相手はこのターンモンスター効果をえません。4体以上なら、デツキからインフェルノイドモンスターを4枚墓地に送ります。『インフェルノイド・ネヘモス』を2体『インフェルノイド・アスタラス』『インフェルノイド・ベルフェゴル』を墓地に、その後手札、墓地から『インフェルノイド』融合モンスターによって決められた素材を除外してその融合モンスター一体を融合召喚します」

「なんだと!？」

「墓地の『シャイターン』2 『ベルゼブル』 『ルキフグス』 『アスタロス』 『アシユメダイ』 『ベルフェゴル』 『ヴァエル』 『アドラメレク』 2 『リリス』 2 『ネヘモス』 2、あと手札の『ヴァエル』も除外して融合召喚。古の破壊神の名を冠す悪魔よ！すべてを滅ぼす死神となりて顕現せよ！融合召喚！ 『インフェルノイド・テイエラ』！テイエラの効果発動。テイエラの効果は融合召喚によって使われた素材の数によって以下の効果が適応されます。3種類以上ならお互いのエクストラデッキから3枚墓地に送ります。私は『インフェルノイド・テイエラ』 『旧神 ヌトス』 『PSY フレームロード・Ω』を墓地に」

「俺たちにエクストラデッキのカードはない。残念だったな」

「5種類以上ならお互いのデッキの上から3枚を墓地に」

『煉獄の消華』 『モンスターゲート』 『インフェルノイド・ベルゼブル』

「8種類以上ならお互いに除外されている自分のカードを3枚まで選んで墓地に戻します。『インフェルノイド・ネヘモス』 2 『インフェルノイド・リリス』を戻します。さらに10種類以上ならお互いに手札を全て墓地に送ります」

「はあ。」

か 相手はいきなりのことですら呆然としている。まあいきなり手札なくなったらそうなる

「墓地に送られた『旧神 ヌトス』の効果、フィールドのデカトロンを対象にとって破壊します。墓地の『インフェルノイド・ネヘモス』は墓地のインフェルノイドモンスターを体除外して特殊召喚するのですが、『煉獄の痲魅』の効果で墓地から『インフェルノイド』モンスターを除外するかわりに、除外されている『インフェルノイド』モンスターを墓地に戻します。『インフェルノイド・アドラメレク』2 『インフェルノイド・リリス』を戻し特殊召喚、『インフェルノイド・リリス』を『インフェルノイド・ヴァエル』2 『インフェルノイド・ベルフェゴル』を戻し特殊召喚、『インフェルノイド・リリス』を『インフェルノイド・アシユメダイ』 『インフェルノイド・アスタロス』 『インフェルノイド・ルキフグス』を戻して特殊召喚、『インフェルノイド・ネヘモス』を『インフェルノイド・ベルゼブル』 『インフェルノイド・シャイターン』2を戻して特殊召喚。これでターンエンド」

鏡LP4000手札0

墓地インフェルノイド13

除外インフェルノイド0

モンスター

『インフェルノイド・ネヘモス』攻3000

『インフェルノイド・ネヘモス』 攻3000

『インフェルノイド・ティエラ』 攻3400

『インフェルノイド・リリス』 攻2900

『インフェルノイド・リリス』 攻2900

魔法・罫

『煉獄の虚無』

『煉獄の痼魅』

「ふざけんな！」

「こんなんデュエルじゃねえ！」

「やろうぶつころツシャー！」

「ハイハイっでどうすんの？ 無駄な足掻きしないでとつとカードくれるなら痛くしな
うよ」

こうして私はあの三人からカードを全部受け取った。え？残りのデュエル？ドロ
ー
ゴーしかしないからぶん殴って終わりだよ。セット1枚とかじゃもうどうにもならな
い積み状態だしね

で、その3人をボコった後しばらくして、また私の前には青い軍服、趣味の悪い仮面
の男が3人

「貴様は我らの任務の障害になりかねん。ここで消えてもらおう」

「さつきから一人の私をよってたかって、イジメないでよ」

「その滅らさず口もここまでだ」

「「「デュエル！」」」